花二百首

863
49
197

一九

国立国会図書館　タイトル『花弐百首』 請求記号 863-197
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『花弐百首』 請求記号 863-197
ガラス使用

863
197

花弐百首

一九

高子

国立国会図書館　タイトル『花弐百首』 請求記号 863-197

ガラス使用

侍花

[illegible]

載花

[illegible]

尋花

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『花弐百首』　請求記号 863-197

ガラス使用

神花

海後一郎殿の橋咲神奴まの川渡よかとみよくいと海
苔のさまをとうまんこうとも地をの海のてをあ橋
ふ

盥花

花ちうう雲をみ申をうをうう明をうう雲を花をとをん
苔をせんをとも神の橋花をうをてをを雲ををありぬれ

丸花

河内長野の山の橋花みをとをあるを色をるを雲かる
苔やをしをうまやせんをうの行くをうしうのをを花をう

交花

山の日長海をあるたをまをてをををを紀書をとをしををん
咲をうう苔をを花の雲をの苔をるれてみうををあうをを

玉花

海ををを鶴をあるを一村の花をは山を雲をの雲をのををし
多く一末尾ををうを分を自山花を雲ををををををををを

道花

新ちうく自橋の花みを雲をよを橋を雲を花ぬを白く
中道の入ををあるを花みをあうかるを紀藩の道橋を於

躑躅花

五月雨の降るを山路に聞くとてよめる

五月雨の降りそそぐ時ほとゝぎす
なくこえのみぞ聞こえける

躑躅花

躑躅のとのくるまさきに花咲かぬ
日数をつもる雨にあるかな

羽花

ほとゝぎすの鳴くを聞きて羽書とかきてあるを
ほとゝぎすの鳴くを聞きて羽書とかきてあるを

夕花

明るくも暮るゝ夕ばえの花ゆゑ
こゝろ行くゝ夕ばえをとゝめて

春花

躑躅咲くを過ぎてはかなき春の花
さくらの花をうらやましがる

月前花

月の前の盃に山桜をうつしてもてあそぶ
山ばえふかく入る月の新あらしに春ぞかをれる

風前花

何ぞ心ぶかき梅の枝ぶり
春風を待ちかねて咲きそめし
花の色香ぞ

雪中花

村雲に月の光より出山梅
立かくれ匂ふ袖の白梅

面中花

面白き色をあらそひ
山風の吹ぬ中なりて梅の花
ふうふうと

杉間花

山さとの杉の枝ぶりの
神花をうつすとて杉の葉の
梅

竹間花

黄鳥や竹の間の梅花竹
の中に春を
鶯もなき
ひとつ咲

山花

杉枝の色は梅よりけ
咲ぬ山の
雪ふりくれ

[illegible] 花

[illegible]

[illegible] 花

[illegible]

[illegible] 花

[illegible]

[illegible] 花

[illegible]

[illegible] 花

[illegible]

[illegible] 花

[illegible]

[illegible] 花

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『花弐百首』 請求記号 863-197

ガラス使用

庭花

[illegible]

川岸ふ新[illegible]ふ橘花ふ[illegible]

河花

[illegible]

[illegible]

池花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

市花

[illegible]

滝花

[illegible]

河花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海　花

出うの浦やとまの梅ちるなみに波のうへまで白の梅

清和天皇御歌

津　花

あしの葉にこ津の浦風吹ぬれば

冬枯ぬとみえて小菅の雑波津より梅の花ぞ咲ける

浦　花

白雪の海士の住家の袖ぬれて

白梅の花の浦の梅の花

白雪の浦の梅の花

江　花

打ぬきの江のきしかひなきものと

思ふ心の色を見せ

沼　花

玉ぬき

沼の水の面の一村

浦　花

浦なく咲花の色

鴻　花

雁ぬを

鴻の池の梅の花

ちるを

花の浦の花

清花

こゝもまたに色よりてかゝりあむしろ
浦をゝ紅小潮の潮の橋花よりもきと
あるせてこもむ

深花

清ゝ深碇ゝ打ちをみくゝ色ゝ
まつ月きゝ面ゝ波ゝ花ゝ沿ゝ
ゝ

碇花

碇ゝ色ゝ橋ゝ見ゝ
碇ゝ花ゝ見ゝ

漢花

貝ゝ月ゝ花ゝ白ゝ
時ゝ海ゝ橋ゝ

潮花

波ゝ袖ゝ潮ゝ花ゝ
橋ゝ月ゝ潮ゝ

里花

さゝ花ゝ里ゝ
家ゝ

藤花

中宮のあまたの御方々にまゐりたまへる藤の花をみるに、
藤をあまたの人の花とはよみ給ひけるつゐでに

郭花

あらしさかりの頃なりけり梅の花を好みたまへる
なる
人々はかりそめにもさくら梅の郭にかけるかひなし

禁中花

時日みしに八重咲一重咲花あるをしるべきなり
雲居なる人の御所にまゐりたまへるをのこどもの
花の色をよみたまへる

社頂花

榊葉に榊をかけてかけまくもかしこき神の御ふる風
榊葉に榊をかけてかけまくもかしこき神の御ふる風

古寺花

山寺の苔の庭にさかりなる花をみるに
一枝も手ぶりにたりけり法師の道の花なるは
あまた咲

赤白花

赤白の花の色をふりぬれば花の色をそなへる
みな人の花にあらぬ赤白の花にたとへる所なるべし

[illegible]花

[illegible]

山家花

[illegible]

田家花

[illegible]

[illegible]花

[illegible]

[illegible]花

[illegible]

糸桜

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『花弐百首』　請求記号 863-197

ガラス使用

八重櫻

一重たゝぬあの花ぞとこそ櫻八重かさねて咲ぬる哉
一重なる花のさけハ八重櫻誰をたゝぬ色と咲ぬる

花雲

おもしろきこゝろ櫻の花をたゝ白雲とてたゝぬ人の世
雲ぞ白ゆくるもしらぬ人ぞ多ふるもしらぬ花の白雲

花書

櫻花花ぞとをしてをしてひとつ書ぬる庵もえぬ
神ふ花花ぞと書ぬ花ぞとてをしてひとつ書ぬる

花梢

當ふあつ梢ぞ春ハ春の花梢ふ梢ふ梢ふ春ぞ
風ふ梢ふ花の梢をやもしらぬ梢ふ梢ふ春ぞ

花枝

枝あつ枝ふ梢ふ花ぞ梢ふ梢ふ枝ふ梢ふ
こゝ梢ふ梢ふ梢ふ櫻ふ梢ふ梢ふ梢ふ梢ふ

花本

明日ふ本ふ本ふ明日ふ本ふ本ふ本ふ本ふ
ふ本ふ本ふ本ふ本ふ本ふ本ふ本ふ本ふ本ふ

国立国会図書館　タイトル『花弐百首』　請求記号 863-197
ガラス使用

花根

花掃部

花面

花麻

花被

花衣

国立国会図書館　タイトル『花弐百首』 請求記号 863-197

ガラス使用

花鏡

櫻花池のかゝみ[illegible]

[illegible]

花弾

[illegible]

花自

櫻花[illegible]

[illegible]

花免

[illegible]

花役

[illegible]

花主

[illegible]

花有遅速

春の色はやくうつる梅よりは
なほ遅くまつ桜の花

花留客

桜咲て春長ふなるあるじかな
世の人をたのしませつる山桜

花惜春

春たにこゝろ安からぬ物とかは
すぎ行春の惜しかるらん

花惜風

春の花とのこゝろ桜をこのこゝろ
ふりふけるかしらの雪も消なん

花下宴

五加人の宴の席
諸共にすゝめ給へる人の盃

伝花添人

ちりそめし花のなさけ
花ゆゑ人のこゝろ

国立国会図書館　タイトル『花弐百首』　請求記号 863-197
ガラス使用

花赤飽

[illegible]

花ぞゑ

[illegible]

花侵　情田

[illegible]

花潮帰

[illegible]

花面新

[illegible]

花形見

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『花弐百首』　請求記号 863-197

ガラス使用

惜花

かくのごとくに花をしをしめて桜花を風の吹散らすを見て

義式もちろん花をあまたふるまて世の中をてあく

庭落花

庭の桜花散りあまたて地面白くなる桜花を惜みて

河の面をとよみなかしてちる桜花の水中をてちる

河落花

山風の吹川波に花をはらはらとこぼしまた

よりて川くだりに花をうる尾上乃花を吹てちる

山桜花多

山桜花をもおしなべてはなをもちりぬく

山花盛桜花をもおしなべて花をもしぬる

花限風

春の山に花をあまたにて桜花風ふ精を吹てちるかぶ

吹風の吹ちるかをかさしつる花をもうつきぬ

殘花

雪花紙みるやうにあるは蝶きは書集に中法桜花多

色を色をとをもはなをもはなをもはな

863
197

10653

蓋雲花

心ゝもとなく何ゆゑかふかきとゝへん春をたゞひとりのみ
沼あまたゝ春はゆふ霧の朝ぼらけ
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『花弐百首』 請求記号 863-197

ガラス使用

863
49
197

国立国会図書館　タイトル『花弐百首』 請求記号 863-197

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『花弐百首』 請求記号 863-197

ガラス使用